



# 歴史

## ロールプレイングでとらえる「応仁の乱」

神奈川県 横浜市立早瀬中学校 米津一豊

### 1 はじめに

戦国時代に興味をもつ中学生は多い。漫画やゲームなどの媒体を通してさまざまな戦国大名の名を知っている。2017年は、応仁の乱を題材とした新書のヒットも手伝って、戦国時代への注目が集まっており、書店に行くと、応仁の乱に関する書籍やムックが充実している。

そこで本稿では『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）p.78～79と『アドバンス中学歴史資料』（以下、資料集）p.64を中心に、①応仁の乱とはどのような戦いだったのか、②応仁の乱によって社会がどのように変化したのかを生徒にとらえさせる実践を提案する。

### 2 授業を構想する

これまで実践した授業では、応仁の乱そのものよりも、乱によって社会がどのように変化したかに力点をおいていた。足軽の登場、京都の荒廃、幕府権威や守護大名の没落、そして下剋上の世と戦国大名の登場といった内容である。

一方、現在世間で応仁の乱に注目が集まる理由は、その「わかりにくさ」だという。だれもが中学校で習い、名前だけは知っているのに、その内容を説明することができない。だれが勝ったのかもよくわからない。そこをほり下げていくことに魅力があるというのである。

乱がどのように始まり、どのように展開し、

どのように終わったのか。乱によって最も利を得たのはだれか。そのようなことを体験しながら、応仁の乱とその後の社会の変化について考えさせる授業としたい。そのため、今回はロールプレイング形式での実践を試みることにした。その素材として、資料集p.64「①応仁の乱の対立関係」（図1）に登場する人物を参考に、生徒たちになじみのあるトレーディングカード風に「守護大名カード」（図2）を作成した。

これを手元におき、生徒は1人1役で応仁の乱に参加した守護大名を演じる。乱の最中に発生するシナリオによって、守護大名の勢力は増減する。その結果、乱の終結時に各守護大名の勢力がどう変化しているのかをロールプレイングを通して生徒たちに実感させる。今回は守護大名の勢力を、その領国を基準に設定し、カード上部の☆の数で表した。領国だけで勢力を判断することは難しいが、乱の前後の勢力を客観的にとらえることができる一つの指針として採用した。ワークシートには、帝国書院ホームページ「昔の国境白地図」（[https://www.teikokushoin.co.jp/teacher/outline\\_map/history/pdf/history1.pdf](https://www.teikokushoin.co.jp/teacher/outline_map/history/pdf/history1.pdf)）を活用した。

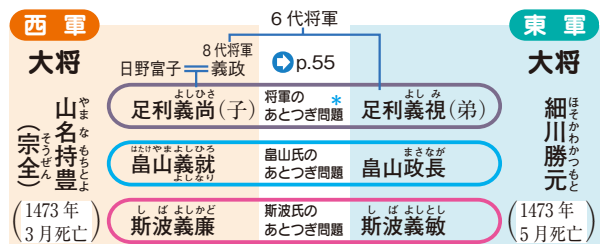


図1 『アドバンス中学歴史資料』p.64 「①応仁の乱の対立関係」

### 3 授業の展開

#### (1) 導入：応仁の乱の概要をとらえる

教師（以下T）「今日は戦国時代に入ります。まず、知っている戦国大名をあげてみましょう」  
 生徒（以下S）「織田信長、武田信玄、上杉謙信、毛利元就……」

T「これから、戦国時代が始まるきっかけとされる『応仁の乱』を学習します。資料集p.64①を見てください。知っている大名はいますか？」  
 細川氏、畠山氏、山名氏などの名前が並び、

生徒たちがあげた大名の名前はほとんどない。教科書p.66～67「南北朝の内乱と新たな幕府」の授業で、いわゆる三管領四職かんれい しきの有力守護大名を学習しているので、覚えている生徒からは声が上がります。ここで室町幕府のしくみについて確認し（図3）、応仁の乱以前の有力守護大名の対立（文正の政変など）に簡単にふれる。あまり内容に深入りせずに、「管領や侍所の長官になった守護大名は京都にとどまっていたこと」「有力守護大名の力が強くてがいに牽制し合っていたこと」の2点を押さえ、応仁の乱はそうした状況で引き起こされたことを確認する。

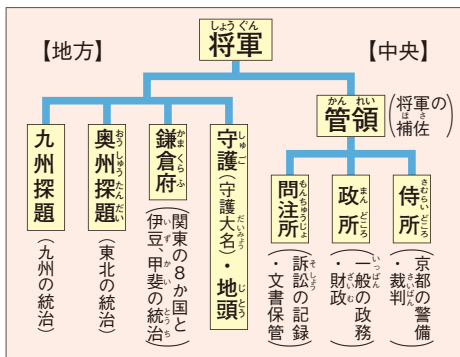


図3 『社会科 中学生の歴史』p.66  
 ③室町幕府のしくみ

(2) 展開：応仁の乱を体験する

6名のグループをつくり机を合わせる。

T「今からみなさんに、応仁の乱を戦った守護大名になってもらいます」

各班に守護大名カード6枚セットと、応仁の乱の舞台となった範囲の白地図を2つ載せたワークシートを配布する。生徒は守護大名カードを1人1枚選び、自分のキャラクターとする。T「選んだカードの守護大名を演じてもらいます。ワークシートの1つ目の白地図の自分が担当する守護大名の領国に色をぬります」

教科書や資料集に合わせて、西軍大名は赤、東軍大名は青で領国をぬることとした。ワークシートへの記入が終わったら、いよいよロールプレイング開始である。

シナリオはあらかじめプレゼンテーションソフトで作成したものを教室のテレビに映した。シナリオの結果の「+1」「-1」などは、守

No	シナリオタイトル	内容	結果
1	1467年1月 京都 御霊合戦（畠山義就VS 畠山政長）	応仁の乱が始まる 山名持豊・朝倉孝景の援軍を受けた畠山義就が勝利	畠山義就+1 畠山政長-1 細川勝元-1
2	1467年5月 京都 上京の戦い（斯波義廉VS 細川勝元）	細川勝元が花の御所を押さえ、将軍足利義政を味方につける	東軍全員+2
3	1467年8月 京都 大内政弘の上洛	数万の軍勢を率いた大内政弘が、各地で東軍を破り京都に到着	西軍全員+1
4	1467年10月 京都 相国寺の戦い	東軍・西軍とも一進一退の激戦 多くの兵が犠牲となり、京都は焼け野原となった	東軍全員-1 西軍全員-1
5	1468年11月 京都 将軍候補の脱走	足利義視が東軍を脱走し、西軍に加わる	西軍全員+1
6	1468年ごろ～ 各地 地方での戦乱	京都で戦いが続くなか、守護大名が不在の地方の各地でも戦いが起こる	東軍全員-1 西軍全員-1
7	1471年2月 京都 朝倉孝景の裏切り	細川勝元の策略により、斯波義廉の家来だった朝倉孝景が東軍に寝返る	東軍全員+1 西軍全員-1
8	1471年8月 越前 朝倉孝景の越前平定	斯波氏の家来であった朝倉孝景が主家の領国であった越前を実力で平定する	斯波義廉-2 斯波義敏-2
9	単独講和の成立	1473年3月 山名持豊 死去 1473年5月 細川勝元 死去 1474年4月 山名氏と細川氏との間で講和が成立する	
10	1477年9月 畠山義就の意地	畠山義就は京都から河内へ移動 畠山政長の軍を破り勢力を拡大する	畠山義就+1 畠山政長-1
11	1477年11月 乱の終結	大内政弘が東軍に降伏し帰国 応仁の乱が終わる	

表 シナリオ（例）

守護大名の勢力を表す☆の増減を表している。生徒たちはシナリオごとに変化する守護大名の勢力をワークシートに記録していく。始めのうちは、「勝った」「負けた」とワイワイしていた生徒たちだったが、シナリオが進むにつれ、終わりの見えない展開になげき声が上がった。

### (3) まとめ：応仁の乱をふりかえる

全シナリオ終了後、ワークシートの2つ目の白地図に色をぬり、1つ目の白地図との変化を見る。「ほとんど変わっていない」「10年も戦って結局これか」「京都で戦っている間に領国がなくなった」などと生徒は感想をもらす。今回登場した6名の守護大名のうち、河内を切り取った畠山義就は領国が増えているが、山名氏は赤松氏に領地をうばわれ、斯波氏は朝倉孝景に越前をうばわれている。

ワークシートのまとめには、「この乱で利益を得たのはだれか」をテーマに、ロールプレイングの感想をまじえて記入をさせた。河内をうばった畠山義就や、越前を平定した朝倉孝景の名前があがる一方で、「利益を得た者はいない」と書く生徒も多かった。今回の登場人物のなかで唯一領国を増やした畠山義就も、国一揆で山城を追われたことを指摘した生徒もいた。感想として、「なぜ途中で足利義視が西軍に加わったのか」や「山名氏と細川氏だけが講和したのはなぜか」など、乱そのものの複雑さやわかりにくさに対する疑問を書いた生徒がいた。

ワークシートの記入後、朝倉孝景のように、応仁の乱ののち元の身分に関係なく各地で勢力をのばしていった人物が現れたこと、それが戦国大名の嚆矢となることを教科書で説明した。

次に教科書p.79「⑥各地のおもな戦国大名(1560～72)」で、応仁の乱に登場した守護大名の多くが、乱の約100年後には勢力を失っていることを確認した。下剋上の時代の変化の激しさを実感した生徒や、朝倉氏が残っているこ

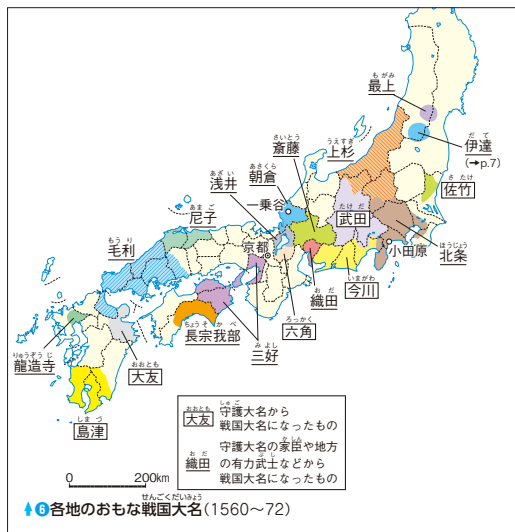


図4 『社会科 中学生の歴史』 p.79⑥ (部分)

とを発見し驚く生徒がいた。最後に、次の授業では戦国大名たちが生き残りのためにしていた工夫を学習することを予告し、授業を終えた。

## 4 おわりに

今回は「わかりにくい」大乱を、できるだけ生徒たちに親しみやすい形で学習させたいと考え、授業を設計した。授業で用いたカードやシナリオは複数の資料を参考に設定したが、資料によって差異があり、正確な情報が得られない部分があったのは今後の課題である。

応仁の乱はさまざまな視点からとらえることが可能であるので、授業の目的に合わせて設定を変更することができる。機会があれば將軍後継者争いに着目した設定や、守護大名と守護代の関係に着目した設定など、焦点を当てるポイントを変えて実践したい。

応仁の乱という一つの歴史的な事象も、さまざまな視点から見ることで違った側面が見えてくることも伝えていきたい。

帝国書院の指導者専用サイトに、  
本授業研究のワークシートを掲載しています。  
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)